

懇話会（第1回）次第

日時：令和4年5月19日 16時～
場所：和泉市役所3階庁議室

1. 開会
2. あいさつ（2分）
3. 懇話会について（1分）
4. 本市の学力向上に関する、これまでの取組状況と課題、今後の更なる取組みについて（10分）
5. 上記「4」に関する、質疑応答について（樋渡氏10分、小宮山氏10分、各構成員5分）
6. 意見交換
7. 閉会

※（ ）内の時間は進行の目安です。

懇話会出席者名簿

		氏名	役職
外部有識者		樋渡 啓祐 様	前 佐賀県武雄市長
	(順不同)	小宮山 利恵子 様	東京学芸大学大学院准教授
和泉市		小川 秀幸	教育長（座長）
		藤原 安次	教育委員
		中西 正人	教育委員
		森吉 豊	副市長
	事務局	吉田 康人	副市長（オブザーバー）
		並木 敏昭	教育次長
		上田 茂幸	教育指導監
		阪下 誠	学校教育室長
	隅埜 哲弥	教育センター所長	
	古川 ルミ	教育センター参事	

3. 懇話会について

（懇話会の位置づけ等）

	内容
位置づけ	和泉市の小中学校の課題である学力向上に向けた新たな施策展開を図るため、有識者に集まっていただき、助言を得るもの。
構成員	懇話会出席者名簿の通り。 （オンライン参加可能）
実施日程	4回の開催を予定。1回1時間～1時間30分程度を予定。 ・第1回：5月19日 ・第2回：5月25日 ・第3回：6月23日 ・第4回：8月3日
公開・非公開	本会議は、非公開とする。 議事録の要旨は、各回終了後、できる限り速やかに公開する。

懇話会の進め方

●和泉市教育大綱「自らの未来を切り拓く『確かな学力』の育成」を実現する議論をしていただきたい。

・現状の取組みや課題を共有の上、今後の学力向上に資する「効果的で具体的な取組み」に関する議論をいただきたい。

確かな学力の育成をめざす議論

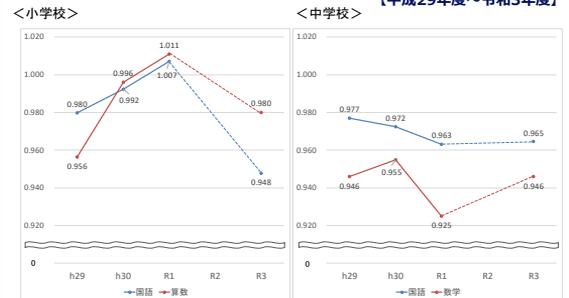


懇話会で議論いただきたいテーマとスケジュールについて

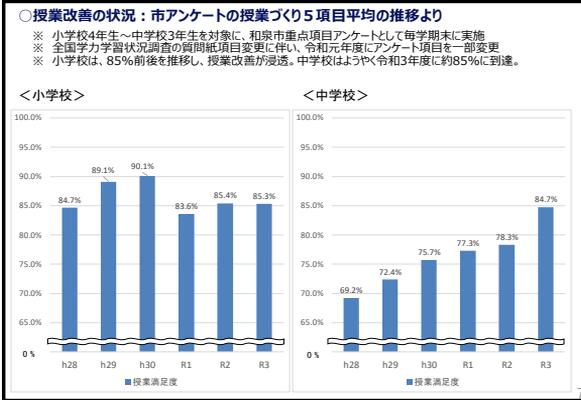
※議論の進捗に応じて、各回のテーマは変更する可能性あり

	議論するテーマ
第1回（5/19）	・本市の学力向上に関する現状と課題について
第2回（5/25）	・今後の取組み、施策展開について （例 効果的なICT活用等）
第3回（6/23）	・今後の取組み、施策展開について （例 民間活用や次世代を見据えた取組み等）
第4回（8/3）	・今後の取組み、施策展開について ・これまでにいただいた意見の確認、まとめ

○全国学力学習状況調査 平均正答率対府比経年比較（国語、算数・数学） 【平成29年度～令和3年度】



※ 大阪府平均を1とする
※ H29・H30の調査結果は国語・算数数学ともにA区分・B区分の平均
※ R2調査は、中止



和泉市の課題

- ・学校間・地域間の格差が大きい
- ・市全体、小中共通して国語力（読解力）が弱い
 (全国学力・学習状況調査結果分析より)
- ・中学校での授業改善の遅れ
 (市アンケート授業づくり項目、プロジェクトチーム訪問等より)
- ・家庭学習習慣が定着していない
 (全国学力・学習状況調査児童生徒質問紙より)



【教育課程内：現状の主な取組み】

事業名	実施内容
STF和泉の学びプロジェクト	・プロジェクト会議（校長会代表・市指導主事） ・全校全教室学校訪問、好事例を集約・水平展開
STF和泉の学び育成プラン	・「STF和泉の学び育成プラン」作成・進捗状況確認 （学校訪問時資料、教育長校長面談時資料で活用）
GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）	・R2年度全児童生徒へ貸与、R3年度本格活用 ・授業支援（ロイノート）、学習支援（タブレットドリル） ・IDXチームによる推進リーダー育成
ALT配置	・全校へ配置し、小3～小6のすべての外国語授業等に配置
学校図書館司書配置	・全校へ配置し、学校図書館の運営管理・授業支援
ICT支援員配置	・全校へ配置し、ICT機器活用支援
STF和泉の学び研究推進事業 公開校内研修	・モデル校を指定し、校内研修の実践的な調査研究の成果を普及 ・モデル校以外においても公開校内研修を実施
校内研修支援	・希望する学校へ指導主事が校内研修指導助言 ・研修費補助
サンSunティーチャー派遣事業	・算数等の支援指導（16H/週）の非常勤講師を配置 （支援在籍児童を含め1学級40人を超える3年生の場合）
（府）加配教員	・加配教員を目的に応じて配置 （主な例）少人数学級別指導 26人・授業改善の推進 5人 35人学級編制 14人

「STF和泉の学び」の推進

- ◆プロジェクトチーム（校長代表と指導主事で構成）
 - 全校全教室学校訪問
 - 研修動画作成
 - 市学力課題協議
 - 課題の改善方策検討
 - 好事例の発信方法検討 等

「STF和泉の学び」の推進

- ・「IZUMI @ シェアリング」
 - － 学校から集約した好事例を水平展開
 - － 市内全教職員が閲覧可能なポータルサイトをR3に開設
 (ロイノートとパブリックフォルダを活用)

GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）

ねらいを捉え、「便利な文房具」として効果的に活用



個人・ペア・グループ 様々な学習形態に対応



体育など様々な教科、学習活動で有効なツールとして

GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）

【導入ソフト等】

- ◆ 授業支援
 - ロイノート
 - 6/16を「和泉ロイの日」、6/14~18を「ロイWeek」、6月を「ロイ月間」とし、活用を推進！
 - (株)LoiLo公認！
 - Google Workspace for Education
 - 個々の考えを全員で共有 → 協働的な学びへ
 - 教室、学校を越えてつながる環境
- ◆ 学習支援
 - タブレットドリル
 - 定着から発展まで 個別最適化学習を推進
 - ドリルパーク

GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）



児童朝礼



児童会・生徒会交流会



アンケート調査



海外の学校との交流

GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）

長期休業中
→ 全小・中学校 全児童生徒が各家庭に持ち帰り、休み中の課題などに活用

← 小学校1年生も持ち帰り 5/22の学校ブログより

オンライン授業
→ 緊急時への備えだけでなく、学校に登校しにくい児童生徒などの学習保障を

GIGAスクール構想（1人1台学習用PC）

◆ IDX連絡会議 **IDXを組織的、全体的に推進！**
ICTを活用した取組みを先進的に実践・研究する教職員と市教委のコラボによりICT端末の活用推進！

◆ ICT活用教育担当委員会
各校に配置した担当教員による連絡会

学校の活用力の向上・児童生徒の学びの充実へ

◆ 小学校教育研究会【情報部会】
◆ 中学校教育研究会【技術部会】
主体的にICT活用を研究

ステップ	実施状況	達成率
ステップⅤ	...	24.2%
ステップⅣ	...	47.5%
ステップⅢ	...	69.3%
ステップⅡ	...	85.5%
ステップⅠ	...	100%

ゴールを可視化 教員が1人1台端末を活用した協働学習をすることができる]をステップⅤに設定

英語教育

★ 16名のALT（外国語指導助手）を配置

- 身近に外国の言語・文化にふれられる環境
- 更なる充実をめざして増員を！
- 小学校の外国語活動・外国語科すべての授業にALTを配置

★ 外部検定試験の活用

- 中3の英検受験を **無料** に

★ 生きた英語の定着に向けて

- 小学生：Izumi city English Camp
- 中学生：Izumi city English Day

読書教育

★平成13年度より 全ての学校に学校図書館司書を配置

学校図書館を活かした教育には読書への興味関心や言語能力、読解力の向上、たてわり活動の場としてなど、様々な効果、可能性があります。その充実、管理運営に専門性を持った学校図書館司書を配置することで、図書館教育を推進しています！

読み聞かせは子どもたちの大好きな時間！本への興味・関心や豊かな情操を育みます。

学校図書館司書が夏休み前に教室に出張しておすすめの本を紹介！みんな興味津々！

たてわり活動での上級生から下級生への読み聞かせ



STF和泉の学び研究推進事業・公開校内研修

・校内研修の実践的な調査研究の成果の普及

－研究モデル校

- ・H29～R3 南松尾はつが野学園
- ・R4 和泉中学校

・校内研修を市内学校へ公開。市が、研修として位置づけ、市内教員が希望すれば参加可



(府) 加配教員

・市内学校においてさまざまな加配教員を目的に応じて配置

- －少人数習熟度別指導
- －授業改善の推進
- －35人学級編制
- －SE推進事業
 - ・確かな学びを促す学校づくり推進校
 - ・国語授業づくりモデル小学校
 - ・学校図書館を充実・活用するためのモデル校
- －小学校専科指導 など



【教育課程外の現状の主な取組み】

事業名	実施内容
学力向上サポーター派遣事業	・小3～小6を対象に、放課後・夏季休業中の校内での学習支援事業
いずみ寺子屋事業	・中1～中3を対象に、放課後・長期休業中の校内での学習支援事業
いずみ希望塾	・小4～中3を対象に、校外での学習支援事業 (市内6会場・年80回・420名程度)

いずみ希望塾 開講 児童生徒が参加します！

いずみ希望塾 平成29年度スタート

- ・家庭における学習習慣の定着
- ・自学自習力の向上



いずみ希望塾

児童生徒アンケートの結果 「家庭学習の時間が以前より増えましたか」 肯定的な回答の割合

1. 1学校以外で学習する時間が以前より増えましたか。

増えた	33%	どちらかといえば増えた	55%	どちらかといえば減った	6.2%	減った	5.3%
-----	-----	-------------	-----	-------------	------	-----	------

88.0%

2. 学校で、授業内容が以前より理解できていますか？

4. 4学校で(小) 国語(中) 英語の授業内容が以前よりも理解できるようになりましたか。

理解できる	33.3%	どちらかといえば理解できる	54.7%	どちらかといえば理解できない	8.0%	理解できない	4.0%
-------	-------	---------------	-------	----------------	------	--------	------

88.0%

5. 5学校で、算数・数学の授業内容が以前よりも理解できるようになりましたか。

理解できる	44.2%	どちらかといえば理解できる	42.1%	どちらかといえば理解できない	10.0%	理解できない	3.7%
-------	-------	---------------	-------	----------------	-------	--------	------

86.3%

- ・年2回のテストでは、参加児童生徒の約2/3が、対全国比の偏差値が向上！
- ・市全体で学校以外での学習時間の短い児童生徒の割合が減少！

※家庭学習習慣の定着(全国学力・学習状況調査用紙 経年変化より)

R4新規の主な取組み




GIGAスクール構想推進と 授業改善の一体化

- ICTを最大限活用し、これまで以上に「個別最適な学び（タブレットドリル）」と「協働的な学び（ロイロノート）」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる

- 市IDXチーム……………
- RST（リーディング・スキル・テスト）
- デジタル採点システム
- 英語AI教材研究協力



等

リーディング・スキル・テスト

課題
テストの問題文そのものや教科書に書かれている文章などを読み取る力が不足
（基礎学力・学習状況調査の結果分析より）

「目で読み取る力の不足が原因」といっても、どの分野が弱いのか？今の子どもたちの力は？

RSTを活用
教科書に書かれている文章やテストの問題文などの意味を正確にとらえる力を能力値7分類（読み受け・解読・推論・読解・読意・読意・読意）に基づいて測定・診断するツール

（RSTの視点を用いた授業改善）

（例）
教職員の説明が伝わるよう、発する言葉や提示する文章を工夫する

- 文章を読み取り、考えていく過程で、目的表現を用いる
- 条件不足・条件過多の問題文を扱うなど

ゴール
教科書に書かれている文章やテストの問題文などの意味を正確にとらえる力をつける

蓄積された
読む力を
RSTで
明確化

この領域で、つまずいていると想定されている学習者が、

総合的な読解力
教科書に書かれている文章やテストの問題文などの意味を正確にとらえる力を能力値7分類（読み受け・解読・推論・読解・読意・読意・読意）に基づいて測定・診断するツール

Input
理解

Intake
利用
熟考

Output
記憶
発表
プレゼン
討論など

生きる力
～自分の課題を見つけ、自ら学習、自ら考え、判断して行動する～

学習の基礎となる資質・能力（言語能力・情報活用能力・問題発見・解決能力等）の育成

デジタル採点システム

教員の採点業務全般の業務負担の軽減
⇒ 「教員の働き方改革」と「学力向上」

テスト結果分析効率化で…
指導の充実 ⇒ 学力向上

- テストの結果データ ⇒ 全体状況把握と個別状況把握
- 個人成績表を発行し、丁寧な事後指導
- 個々に苦手な分野の補習プリントが提供されるシステムにより、生徒の家庭学習等が充実（予定）

1人1台学習用PCとの連携で…
テストデータ蓄積 ⇒ 生徒個人が次の学習にいかす

- 全生徒に貸与したPCと連携。（予定）
- 採点し終わったテストを紙から、1人1台学習用PCで返却。
- 生徒自身がタブレット端末の中でデータを蓄積、次の学習に活かす。
- 保護者との共有を容易に行う。

協議・意見交換